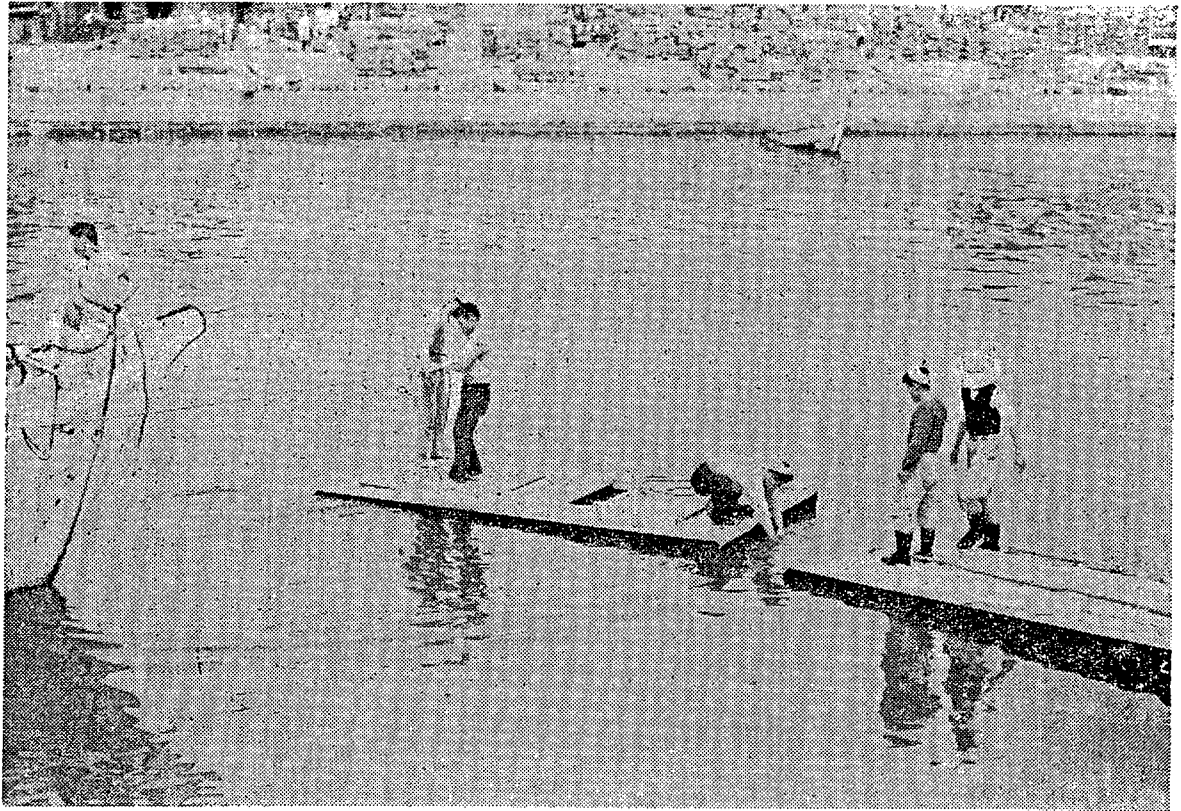


第五九号昭和卅六年七月十五日発行
毎月十五日一回発行 一部 十円
昭和卅二年十月十八日 第三種郵便物認可

水拓

七 月



(明石浦におけるタコの養殖生簀)

兵庫県漁業協同組合連合会
財団法人 兵庫県水産業改良普及協会

北国からごあいさつ

川 越 敬 一

なつかしい兵庫県の皆さんへ

私は六月二十日付をもって兵庫県水産試験場普及調査課長を辞し、翌二十一日付をもって、富山県農林水産部水産課長に補せられました。昭和二十三年九月三十日、兵庫県經濟部水産課勤務の辞令をいただいて以来、十二年と八月余り、兵庫県のお世話になったわけです。なかでもそのうち十年間は、水産業改良普及事業を担当し、たくさんの有為な漁村青年諸君と知己になりえたことは、生涯かけがえのない幸福です。いつの日か、私をはぐくんでくれた兵庫県で老後を養いたいと望んでおりますが、おそらくそのころは、兵庫県水産界の主脳部は、私の知己たる青年諸君で構成されているでありましょう。海が大好きな私、千メートル以上の山へ登ったことのない私です。年老いてからも漁村をときに応じて訪れたいと思っています。どうか青年諸君、そのときには海を見な

がら若いころの思い出を私と分かちあってください。

浮敷網と曳縄釣

在県十二年半のうち、兵庫県の漁業で技術的に最も大きく変化したものは、網漁業では浮敷網であり、釣漁業では曳縄釣といえよう。研究発表全国大会において、浮敷網で一回(香住)、曳縄釣で二回(柴山・福良)、それぞれ大臣賞を受けた。この二つの漁業は全く異なるものであるけれども、その技術の進歩が大きかった点でいくつかの共通点がある。それを私は次の二点に要約したい。

1、ディーゼル機関の性能をフルに發揮する漁業であること、もし但馬の漁船がむかしのようによりモーター船(電着エンジン船)であるなら、集魚灯の電源は蓄電池(バッテリー)に頼るほかなく、浮敷網は開発不能である。曳縄釣は長時間、低速で航走しな

ければならない。かような負担に耐える機関としてはディーゼルが最高である。

2、諸種の化学セシイの性質を巧みに利用し、これを組合わせていること、

もし綿漁網で浮敷網を作ったら、潮どおりが悪く、網もちが重く、今のような成績をあげることができまいし、曳縄釣においてもその完成度において最高に達している明石浦のサワラ漕釣は、テトロンとナイロンの性質を最も合理的に組合わせたものといえる。

ここから将来の漁業技術開発の方向を占なうことができる。要約すれば新しい科学技術——とくに工業製品の進歩を大胆卒直にとりいれてゆくとところに新しい漁業技術がうまれるであろう。しばらく空想をたくましくすることを許していただきたい。

但馬の浮敷網は、アジとイワシを獲る。アジは安く、イワシは高い(二十年前と価値がまるで逆になってしまった。今昔の感に耐えない。閑話休題。)集魚灯をつけるとアジは浮きやすく、イワシは沈みやすい。安いアジより高いイワシを多く獲りたいが、浮敷網は浮いている網だ

目 次

北国からごあいさつ

川越 敬一……………1

聞きある記

ハマチ養魚は進んでいる

漫 坊……………3

ある漁協職員の話

楽 餓 鬼 帳……………5

漁業今昔

いわしの巻……………(15)

平岡安民……………6

水産課の人事移動……………8

やさしい

漁船機関基礎講座……………(9)

水 試 杉本技師……………10

昭和三十六年四月の

海面漁業漁獲量の概要

農林省兵庫統計調査事務所11

ら、とかくアジが入りやすい。そこをどうかして、イワシを多く獲る工夫はないだろうか。

私の答えはこうだ。深いところ（といっても中層）にいるイワシを、表層へ誘いあげることも一つの方法なら、網の方を沈めるのも一つの方法じゃないか。「浮」敷網にこだわらず、「沈」敷網を考えたらどうか。恋の手くだに例えるなら、彼女を呼びだすことがむづかしいなら彼女の家を訪問するようなものである。この方が確実である——私の個人的経験に徴しても……。

再び閑話休題、さてイワシは中層にいるのだから、単純な「沈」敷網——八田網か四艘張網では完全でない。どうしても「中層敷網」というようなものでないとうまくない。ではどうすれば中層敷網ができるか。私の考えたヒントはこうだ。近年、北大西洋の沿岸沖合漁業で盛に用いられているという中層曳網の原理を応用するのだ。それはアバとイワにカイトを用いる。カイトとは「たこ」——正月に子供があげるたこのことだ。つまりアバやイワに適当なヒレをつけて潮の抵抗によって、網口を上下にひらいたり、逆にとじたりするのだ。つまりこのヒレの傾角

を船上からリモートコントロールすることを工夫すればよい。ヒレの素材には熱可塑性のプラスチック板を成型する。その技術は水試の井伊明技師が巧みだ。（ここにも近代工業製品の応用がある）

曳縄釣で工夫したいのは漁獲物の鮮度保持である。サワラ、サゴシ、ヨコワ（クロマグロの子、但馬でいうカツオ）、ソウダガツオ、ハマチなどは活物として活かさない魚であり、しかも高級魚だから、鮮度の良否が価格に大きくひびく。漁獲物を新鮮に保つには低温がいちばんである。結論からいおう。魚倉にプラスチックの安い断熱板をはりつめて凍氷をたっぷりつかう。（ドライアイス）は温度は低いが、冷却力がないから不可。加えて、近ごろ家庭用電気冷蔵庫やクーラーによって大いに進歩してきた超小型冷凍機を試用してみてもどうだろう。三トン五トンクラスの漁船に冷凍機などという「何を夢のような」と笑われるかもしれないが、一本千円のサワラを二十本釣れば二万円だ。これを一人で一日で釣る。遠洋マグロ漁業をはるかにしのぐ生産性である。遠洋マグロも釣漁業、曳縄釣も釣漁業だ。最大

規模の漁業といわれる捕鯨に至っては、もっとも原始的な漁業とされる。遠慮することはない、小型漁船にも冷凍機をつけることを誰か試みてもよいではないか。かような先達漁船には、県や市町村で特別の補助策を講じてもよいと思う。（兵庫県水産課の皆さん、県を離れたら勝手な熱をあげる奴だと思わないようにお願いします。）

共同経営体の脱皮

話が技術に片よったので、経営問題にも少し触れて、本稿をとじることにしよう。

兵庫県は非常に共同経営体が多い県である。それも前近代的でしか社会的な共同経営である。「前近代的で社会的」というと何かムジューンした形容のようだが、その逆を考えればよい。「現代的で資本主義的」なのは、株式会社経営である。他事ながら、当地富山県には、「前近代的で資本主義的」な漁業経営がかなりある。すなわち定置漁業の網主経営である。月八千円くらいの所得しかない漁夫（カコ）層と、月収十数万円の網主との対立がある。それにくらべると、兵庫県の漁村はなんと民

主的で社会化されていることか。

しかしここにも欠陥がある。「前近代的」というゆえんだ。雑誌「漁協経営」の六、七月号に二回にわたって連載している小稿「沿岸漁業への処方箋」にも書いたし、また水試の報告書でも触れるはずなので、結論だけを簡単に書くことにする。

それは歩合制賃金をやめるのである。個人個人の技能に応じ、かつその向上を正しく反映する日給（本給）と、漁獲が多いときに加給される附加給（奨励給）とにする。船シロ、網シロはやめて、船や網の償却費（定額制）とする。（誤解のないように、これは共同経営の場合に限ることを断っておく。個人経営や会社経営では不可能だろう。）そして利益のうち一定割合（利益の三割ないし五割）の不漁積立金を控除した残りを、特別配当として基本給と出漁日数とに比例して漁期末に分配する。

さらに理想的にいえば、いくつかの共同経営体が一漁積立金を相互にプールしあい、さらにこれを全水共の漁獲共済に再保険する。こうすれば生産意欲はあがり、技術の向上、訓練にはげみができ、執行体制（幹部）の責任が明らかとなり、しかも

所得は安定する。「漁業は水もの」という古いカセから解放される。よいことづくめだが、さて誰か、どこかの網組で思いきった革命をやらないものか。将来の中規模（漁家経営ではできない大きさ）の沿岸漁業の経営はこの方向に進むよりほかに生残れないと思うのだが……。たとい十六才で月一萬円の収入があるうとも、四十才になってもやっぱり一萬円というようでは、若い人は将来の見込みがないから、他産業へ行ってしまうであろう。努力する者も、人のあとからついてゆく者も同じ収入というのが、今の網組の歩合制である。このままではほろびるほかない

に。若い労働力の補充がないため

× × ×

筆の走るにまかせて妄言をつらねてしまいました。しかし一抹の真理は含んでいるはずで、賢明なる読者各位が何らかのヒントをつかんでいただければ幸いです。（富山県水産課長）



（聞きある記）

沿岸漁業の花形

ハマチ養魚は進んでいる

坊勢—小林水産KKの巻

—此の島の入江は、たとい対岸の室の津ほど有名でないにしても、遠く平安朝のころから瀬戸内海の良港として、おりおりは貴人の船も立ち寄ったことがあるのだろう。試みに地図を開いて見れば飾磨の沖播磨灘を経て小豆島に至る間に、点々として飛び石の如く無数の島岐が連続している——。これは谷崎潤一郎作「乱菊物語」の一節である。そして谷崎氏は、きらびやかな瀬戸内海の風光が織りなす背景の上に、自由奔放な香り高いロマンの叙事詩を、のびのびと描いてゆこうと試みられたようである。

「乱菊物語」が未完の姿をとどめているのは淋しいが、この小説の豪華な一つの舞台を構成している家島群島は、最近、めきめきと時代の寵児にのし上って行く気配がする。

それはこれから、どのようにでも手をつけてゆくことができる有望な観光地としてもそうであるが、漁業の面からいっても、天然の屈曲は、沿岸漁業の花形「ハマチ養魚」のメッカにもなってきたであろう。されば漫坊もペンを担いで伺ってみた。いつものようにペンの走りすぎたところは御許しを願いたい

漫坊

梅雨を思わせない強烈な陽光が、あたりの色彩をばげしくそのかし入江であった。

この養魚場へ来てみると、さすがに選ばれた格好の海であることがわかる。

こちら岸からむこう岸へ、太いワ

イヤーが張られ、ワイヤーからの吊り索が下がって仕切綱の上部を保持して、綱についた浮子は、濃い青さの海の上に、規則正しく点々と並んで、明瞭な区劃を示している。

—漁船のエンジンが停止すると小林水産KKの社長である小林さんが、餌をやる小舟の上から、陽に焼けた頬をほころばして、こちらを見おられた。

「いやまったく、養魚事業というものには、もっと簡単なものと思っていたのに、こんなにシンドイものとは思いませんでした」

小林さんは開口一番、まずこういわれて、そしてすこしハニカんだような表情をされた。清潔な白い歯が海の返射を受けていっそう白く見える。漫坊はすこし皮肉まじりにいったものである。

「しかし小林さんが、この事業を始められる際に、県水産課の森本係長さんと話されていたとき「養魚は、わたしの経験では大丈夫です」とカルくいわれていたのではなかったんですか」

小林さんは、いとも素直に頷いて「そうです、そうなんです。そのときはまアそう思っていたんです

が。ところがドッコイ仲々そうはいか
なかつたんです」

といわれ、言葉をついで

「結局昨年はずいぶんの赤字を出
しました、良い勉強になったといえ
ばいえませんが、コタえましたワ。ホ
ンマに養魚はシンドイですね」

X X

すべて新しい仕事は困難が付きま
とうものであろう。いかに魚につ
ての経験が深いとはいえ、養魚事業
は、施設と、技術がウマく適合して
進むものなのであって、昨年の損害
から今年の考え方を、小林さんは次
のように語られた。

◎まず昨年は台風によって、綱仕切
をいためてしまった。これが損害
の最大の原因といえる。もちろん
施設そのものに手ぬかりがあり、
とくに綱を支えるワイヤーを太い
松の幹に結びつけていたのが、木
ごと引きぬかれることになった。
風浪の強さが、この場所であるよ
うに凄じいものであるとは予想
もしなかつた。このため折角のハ
マチを逃がしてしまった。施設の
工作上の問題点をいやというほど
覚えさせられたワケだ。
しかしこれはまた逆に、あれ位で
あるなら、今年こそは大丈夫だと

いう自信を深める結果になってき
たのは大きな収穫といえよう。

◎また昨年のタネ魚にも問題点があ
ったようで、これはタネ魚(稚魚
)の確保に県命であったのと、ま
だ取扱いに不馴なためもあって、
遠い所から運搬してきた稚魚をウ
マク生かしきらなかつたららみ
があつた。

今年には稚魚の運搬にも気を使いま
た近くのもので間に合せることが
できたのは幸いであつた。

◎餌のやり方、小割りから放す方法
について、いろいろとこまかいて
だてがいろいろと、それがやると呑み
こめてきたようだ。

X X

話しを伺っているうちに、小舟は
養魚場の中心近く、やや北寄りに行
く、透明なみどり色の海のなかに、
群をなしてハマチが、大きく右へ右
へと泳いでいる。

餌をやる人が、冷凍のとけかけた
イカナゴを両手につかんで、海面に
叩きつけるように撒く、瞬時に、ツ
バス(50〜60匁)がひしめき合っ
てむらがる。

餌のイカナゴは、目にもとまらぬ
早さで、海中に入るやいなやなくな
る。

それはまたなんとという旺盛な食欲
であることか!

餌を食べる音——それはひしめき
合う群の海水をわかせる物音であ
る。次から次へと餌が投げられる。
こまかいしづきがあたりの海面に
ひろがって、そこだけが、七月の陽
光のなかに、きわだっているのだ。
濃い緑につつまれている家島群島
の一角、底なしの沼があつて、そこ
にまつわる伝説をも秘めている西島
の入江は、いま盛夏のなかにじつと
うずくまっているようである。

X X

——さて、小林さんのいわれたよ
うに、養魚事業は自然の災害によつ
て思いがけない損失を被ることがあ
る。

この場合に損害を食いとめる方法
として、「漁業共済」が登場してく
るのである。

「漁業共済」を行っているのは、
「全国水産業協同組合共済会」これ
を略して「全水共」といっているが
神戸支所石田次長さんは、養魚事業
の共済について次のようにいわれて
いる。

「なにしろ、養魚事業というのは
全国的に見て新しい事業といえるで
しょう。ということは、未だ事業そ

のものの実績と申しますか、経営内
容といえますか、そうしたものが、
はっきりとしていないようなんです

ネ。例えば兵庫県でも、福良で県営
の養魚場がスタートして、やっと今
年で3年目ということになります。

共済事業では、過去5カ年の実績
で、掛金を考えていたのですが、そ
れが、七月一日から改正になって、
掛金は一応決定し、引受ける段階に
きているんです」

「そうすると養魚事業は、イザ災
害に逢って、ペンションにぶれる
ことが、それで或程度救われてくる
ことになりませぬ」

「それは、掛金を掛けておられれ
ば損害を補填しますから、そのよう
な心配はカルくなるでしょうけど」

「引受けはされるんでしょう?」
「そこですよ。私のところは事業
ですから、アタマから引合わないこ
とをするワケには参りませぬ。」

「それでは、養魚事業は、今のと
ころ引受されるのに難点があるとい
うことですか?」

「香川県では引受けていますけど
さっきいきましたように、兵庫県で
は実績がまだあまりないというのが
難点なんです。ただし、養魚事業と
いうのは、沿岸漁業のトップを行く

事業で、漁業振興の一つの手段ですから、これに私達も大いに協力して行かねばならないことは、いうまでもないんでして、そこでですね、経営年数が少くても、その経営が非常に信頼される状態にあるというのには、積極的に、いわば片肌でも両肌でも脱いで行きたい。しかしハダカで走るワケには参りませんよ」

「信頼される状態という？」

「それは、経営がハッキリしていることと、事業そのものの信頼度が高いということ、例えばその養魚場の施設にしても、かなりの風速に耐える構造になっていて、もちろんその道の専門家が工作的に見てのことです。それから養魚の責任者というか主任者というか、その人の養魚経験年数が5年以上もあり技術的に信頼できること、及び漁場の状態が水深とか酸素量とかで、県水産試験場も大丈夫と見られるといったことが信頼される事業の基礎ではないかと思えますね。そこならば私達も、ひとつ、年数が少くても冒険をしてみようと思えますね」

全水共の事業を推進されていられる石田さんは、ものやわからかに、事業の進め方について言葉をにつづられるのである。

沿岸漁業のトップを行く〃かん水養魚〃は、いくたの問題を抱えながら、それでも飛躍的に養魚尾数を増加させている。一時いわれた瀬戸内

ある漁協職員の

楽= 餓= 鬼= 帳=

21 尽日春を尋ねて春

を得ず

その当時彼は英語と物理化学が得手で、ぼくは原動機と三角と国文が好きであったが、その彼(卒業から現在までずっと大阪T工務店勤務)から数日前景気のよい便りをもらってうらやましく思い、彼等から取り残されてゆくようなわびしさに包まれた。

六月といえはボーナス月、強いて見ないと思っても、あの会社は何万円、この会社は何万円にプラスアルファと新聞の活字が飛びこんでくる。そしてボーナスは投資とかオープンエーと金融関係もコマシヤルに余念がない。

景気のいい話だ。

そんな景気の良い話を聞くにつけても、漁協職員という名の動物がいつも不慾に思われる。

海で百万尾は、いまや二百万尾に近いのではなかるうか、漁業の形態はやはり変ってゆくのである。

兵庫県においても、この流れに乗って進むべきであろう。

つれづれに、ぼくも我が身をかえりみて、十幾年前の就職のスタートそのものが、そもそも悪かったのだと、いかにもさとしたようなあきらめ自分で自分を裁き自分を批判するが所詮

あきらめましたよ、どうあきらめた

あきらめきれぬと、あきらめたという俗謡のとおりになってしまうのが落ちだ。

誰かのおっしやった

水に棲む魚は水と感じないように或いは水質の違った水に放たれた魚がいつかそれに順応してゆくように

ぼくも常に低位なものに馳れてゆくように思われるが、さればとて低位なものを克服してゆく努力はしても、それを認めてくれなかったり、それであきらめ低位なものに馳

れてよいのだろうか、

内省を極めれば極める程やがてぼくの機関もストップ状態におかれるのではないかと不安と何とか自力発電の青写真を樹立せねばという意欲が交錯する。

敵を探索するには

敵の見える所まで突っ込んでゆけ

十五年昔の直屬上官に聞かされたことが、いまだに耳に新しいのに、そんな度胸もうたかたの如くすぐ消え失せるのは如何にしたものだろうか、だが世は将にダイナミックな夏

心細さ

わびしさ

不びんさ

いらだたしさ

そんなもろもろなもののはあの波の果てに湧く雲の峰え吹きとばせ

そしてドドンパでも唄おう。

パチヤンガでも怒鳴れば入道雲の中に御座る理性と智慧がやがてすべてを解決してくれるだろう。

咲いた咲いたについうかさかれて

花を尋ねて西また東

わらじ切らして帰ってみれば

家じあ梅めが笑ってる

で泣くも笑うも魂の故郷は畢竟わが心にあるか?

いづくも同じ秋の夕ぐれか?

年々歳々花は同じでも花のみようは年々歳々変ってゆくサ……

(六月二十日)

いわしの巻 (15)

平岡安民

新生丸

ふと一方の壁に、自分の愛誦する
流浪の詩人杜甫の五律、今夜驪州の

水 59号

拓

第三種郵便物認可

(6)

昭和36年7月15日発行

て貧しいながらも自分の仕事をしよ
う、それがいかに困難であつても人
に使われる気苦労にくらべたら物の
数ではない。とこう決心していた。

昨年暮会社釜山へ移転した時
私も浦項の家を処分して一緒に釜山
へ出てきた。小さいながらも家内と
相談して設計新築した浦項の家に、
殆んど旅に出ている私は僅か半年く
らい住んだだけで売り払って来たの
であつた。その時は惜しいと思わ
なかつたが、後日になってその家の
ことがなつかしまれた。

「気の毒ですが一年外の人にやら
せてみたいと思ひましてね。あなた
は陸上勤務へまわってくれませんか
あなたにはまり役の椅子を用意して
あります」社長はこういった。
「ありがとうございます。私はし
かし、やはり病みつきというか、漁
が好きでね。慶南道庁から建網の許
可もとっていますので、差し当りそ
れをやるうと思つてゐるんです」
こうして久しぶりに家におちつい

だ。関釜連絡船の発着を目の下に見
おろし、しかも適度の距離があつて
駅の雑音も聞こえない。家の裏は公
園である。すっかり気に入つたが、
これが又大変なしろ物で、大分傾い
て居り、二階の畳の上で夏など昼寝

していると、いつしか窓の際へすべ
つてきているという工合。迫間さん
にその話をする、

「戦争中だから、自分がまんしな
さい。何しろあの家は、もう十年位
前から、こわして建てなおさねばな
らんといつていたのですからね」

「ごあいさつに恐れ入る外はない。
家など一向苦にならんが、牧の島の
漁港から小一里もあるこの家に居
て、さて新しい漁業計画をどう進め
ようかと苦慮していた。

こんな一日、村瀬さんがやってき
た。朝鮮服ではなく、和服の着流し
である。この人もMさんや私と前後
して釜山へ出てきて、M社の隣に新
築を建てていた。「今日は相談があ
つて来たのですがね、わしも六十に
もなると沖の仕事が大儀でならん
し、そろそろ退役にまわるうと考え
ているんです。誰かいい人を見つけ
て采配をゆづろうというわけです」
「さあ、私の知っている人では、ど
うも心当りがないんですが」

「いや、そこであなたにたのもう
と思うんですが、どうでしょう」
「私はMから追い出された落第生
ですよ。さがせばいくらでも優秀な
人が居るぢやありませんか」
「居ることは居りましようがね、

いかげんなのをたのんでも安心な
らんし、たしかな一流の連中になる
と、わしらのような貧弱な一ぱい船
主では、とても奴等のぜいたくづく
めの条件を受け入れることはできん
のです。うちの船でこのわしが養成
した二、三の漁撈長が、今では頭が
高くなつて船主を搾取するような横
暴ぶりを発揮していますよ」シヤク
なやつらだといはんばかりに力を入
れてこういった。

「Mさんにも ああして欠損をか
けた始末ですから、自信もないし、
自分で何かはじめようと思つて、段
取りを進めている所です。私を拾い
上げてくれるお志はありがたいので
すがね。まあ辞退する外ないです」
「いや、去年はたしかに無理だっ
たでしょう。しかし今年は大丈夫や
れますよ。M社のNさんも惜しい惜
しいといつてました私も同感で
す。元氣を出してもう一年やってみ
ませんか。私の所だつて、そりや自
せん、他せんの腕ききというのが、
いくらもやって来ますがね。私は近
所に住んでいて、お互に気心もわか
つとるし、あなたは将来必ずやると
見込んで、すすめるわけです」
私だつて、勿論みれんはあるのだ
つた。その日その日に、自分の技倆

で成績を上げてゆく。いや一番一番で勝負をつけてゆく、漁撈長の仕事は、困難さが伴うだけに一層やり甲斐のある男商売だという考え方に変わりはなく機会さえあれば、もう一度という願いは腹の底に蟠っているのである。しかし昨年のにがい経験からいっても、この人の網で十分の成果を上げることがむづかしい。

「条件も一通り聞きましよう。待遇もできるだけ考慮します」

「私は待遇などを持ち出す身分ではないのですが、仮にやらせて頂くとしてもです。新しい網地を千八百貫ほど。漁夫の契約金も平均並より一寸奮発してもらおう。運搬船もチャーターでふやして、三百トンはほしい。ところならべては、あんたも当惑しまししよう。昨年のように足軽級の私が、サビ刀をかざして、銘刀をおびた騎馬武者と戦うようでは初めから負けるにきまっていますからね。こういう失礼ですが、あんたの新生丸はニイガタディーゼル百八十馬力の優秀船ですけれども他の装備ではまあ平均以下ということですからね」けんかは先きにしろという気もちで、向うが怒るか、折れて出るか、どっちでもよいと私は軽く吹っかけてみた。

「網が平均以下とはとてもないMなどにくらべたら、うちの網は立派なものだ。必要とみとめたら新しい網も入れますよ。なあに、R丸やK丸など、いくら上げたといって威張ってみたって、仕込資金に食われてしまつて、もうけたが損したかわかったもんじゃないんです。わしはそんなバカなことはいけませんよ。必要な程度のことはいくらでも、あなたの希望にも副います」

突っばねたような、折れて出たような、わけのわからん所はあるが、それを追及するほどの身分でないことを思い知らねばならぬ。どんな問答をかきねてみた所で、私は拾い上げてもらう浪人であることに変わりはない。こうして再びいなし旋網船に乗り込むことになった。何の因果か、私はうるさい問題とか、苦しい仕事とかいうものに四つに取組んでみたいという私自身のあまのじゃくを押へきれなかったのもある。

家内がある時長男を背負って海岸を通っていると、まだ誕生日を過ぎたばかりのこの子が、何かしゃべりながら騒ぎだした。よく聞いているとそれが何をいっているのかがわかってきた。

「トウチャン、ゲンザン、アミチ

ンヨチンヨ」なるほど指さして叫んでいる相手はその海岸に繋がれて居る巾着網漁船で大勢が網を繰りこんでいるのであることがわかった。しかし驚きは去らない。こういう言葉はばあちゃんが暇つぶしに教えこんだものらしいが、網がどんなものかも知らぬ筈のこの子が、ちゃんと網も船も身近にわがものになっているということ、やはり男の子だと家内は新しい発見をしたように思った。それは大きい。女の子であるとして少し大きくなつても、とうちゃんに手紙を書こうとか、いつ帰るとかいふ関心は深いけれども、網や船などに注意を払っていないということは言えるよ。それはよいのだが、私の出漁中に生まれた四女H子などは、家に居る期間の方が短い父に対して何となく水くさい。生長してからもその水くさいさは残っているように思われる。旅に出がちの親にとって、これはさびしいことである。

やはり貧乏しても家族一同一しよに暮らすに越したことはない。こういう風に考えて来ると巾着船乗りなどいやな仕事だ。資本家の側に立って漁夫や船員を酷使せねば成績は上がらないし、労働者を擁護すれば船主からにらまれる。漁がなければ首を

チョン切られること、他の乗組員ならよほど悪いことでもせぬ限り、例のないことである。

それにもかかわらず、一たんこの毒ある木の実を味った人間は、その味を忘れられない。もうやめたと思つていても誘われると直ちに食指がうごくのである。

村瀬の網はM社のそれにくらべたら装備は幾分ましであった。けれども一ぱい船主であり、自分が沖へ出ていた人であるから、古網一反でも「この網は使える」というこまかさは随所に現われてくる。時々沖へ乗って来て、さしづもする。

或時成南卵島という無人島の近くを通りかかると、

「巾着業者というやつは、バクチ打ちみたいな連中が多いんだ。資本を集めてきて、のるかそるかというバクチをやって自分は事務所デンと座っていて一どもうけてやろうというんだ。本当の漁師なんぞ居らんですよ。そこへ行けば、わじなんぞ、苦勞のありたけをしつくして、本当に腕一本で、ここまで来たんです。昔落ち目になった時にね、ばあさんと二人でこの島に住んで、山羊を飼って暮らそうと考えたことがあるんですよ。わざわざ伝馬で島に上

がって、平地がどれだけあるか調べたことさへあるんです。ロビンソンでも俊寛でも何でもいい。苦しみばかりの世の中から逃げ出そうと決心したわけです」

「こういう人であるから仕事の上でも微に入り細をうがって、隙がない。私のような新米漁撈長が、時々不意討に揚足をとられたり、小手を一本などいうことは珍しくなかったのも当然のことであろう。朝鮮料理屋で浩然の氣を養う豪放な線の太い性格の半面、これはと驚くほど緻密なソロバンも弾くのである。いはば我々にとっては、うるさ型の姑さんであり、手きびしい師匠さんでもあるわけだ。しかしこちらもすなおな嫁でもないし、従順な弟子でもない。サビ刀で渡り合うことも少くない。中でも

「漁夫どもと仲よくやってゆくなどとは甘い考えだ。使う者と使われる者はあくまで利害相反する立場にあるので、殊に漁夫などはいわしと同じで、うんとしほるほど油が余計に出るものなんだ。あんたのようなまぬるい使い方で最高能力を上げる事はできませんよ」これくらいならまだよいが

「T丸に行った金などという男は、

漁夫の出方が遅い時は、寒中でもバケツで漁夫部屋の中へ水をブチ込んだものだ。あの男はやっぱり一流の漁撈長になったからね。あんたの温情主義みたいなものは、彼奴等を増長させるだけのものですよ」

「こんな時はだまって居られぬから正面から切りこんで、

「もともと人間が人間を使うなどいう権利は誰にもない筈なんだ。唯仕事の種類とめいめいの立場がちがうだけなんだ。それを自分が思いのままに使えるなど、考えるのが、思ひ上がって増長した考えですよ」

しかしこんな旧式な親方と、いくら議論してみたって、双曲線をたどるばかりで了解点に達することはない。議論はいつしか口論になり、気まづい空気をつくるばかりなので、事漁夫の使い方や、待遇のことについてしようとする時、極力これをはぐらかして衝突を避けるようつとめるほかない。それでも村瀬さんから見たら、

「こんな生意気な理くつの多い男とは思はなんだ。つまらぬものを雇ったものだ」と後悔していたにちがいない。もし前の大徳丸に乗った時のような采配ぶりであったら忽ちお払い箱であったろうが、幸にして漁

獲はあまり他船にヒケをとらぬだけ上がって行った。

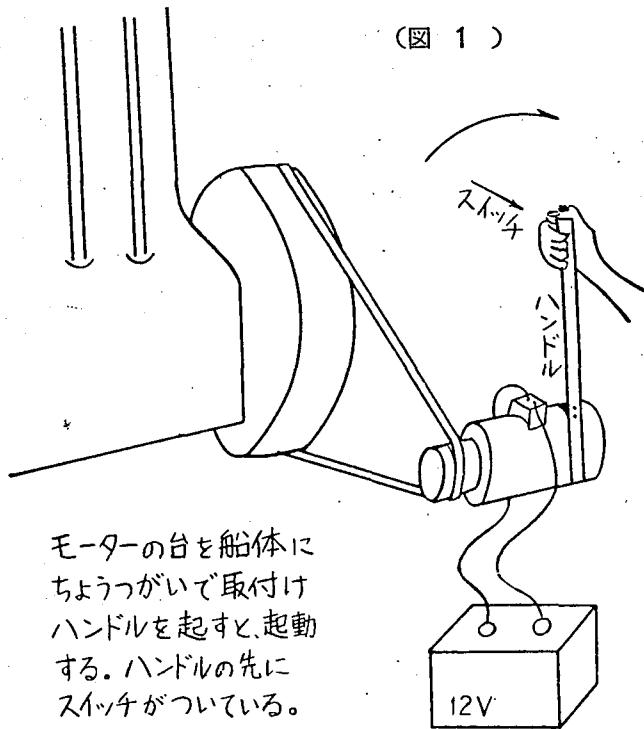
やつらを甘やかすなと強がりはいいながらも私が漁夫らを手足のごとく使いこなすのを内心意外にも思っ

ていたようだ。それに、さすが玄人だけあって、たとへ気に食はぬことがあったからとて漁期中に首のすげ換えなどやっても得るところがないことを十分わきまえていたようだ。

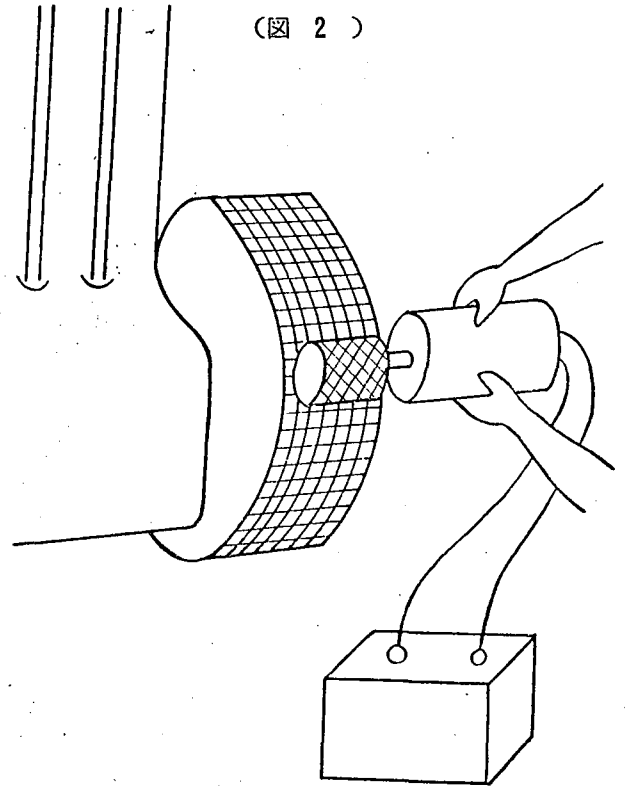
県水産課の人事移動

このたび水産試験場の普及調査課長であった、川越敬一氏が富山県水産課長に栄転され、また企画部に補償課の新設等により左記の通り人事移動がありましたのでお知らせ致します。

旧職名	氏名	新職名
六月二十日付	川越敬一	富山県水産課長
六月二十一日付	菅原英一	水試、普及調査課長
	岸原英一	但馬水産指導室長
	青島正輔	流通係主任
	田寺龍彦	漁業権係主任
	磯川龍彦	漁業権係
	石井昌規	漁港係
	藤井昭	水試、普及調査課
	広末哲郎	生産係
	伊藤光一	生産係
	西村誠吾	漁業権係
	後藤誠吾	漁業取締船
	松井芳為	保安係
七月十二日付	森本勝己	企画部補償課長補佐
	三上勝己	補償課主査
	笹野正人	補償課補償係主任
	欽方野郎	補償課
	福井志郎	生産係長
	萩野治	生産係主任
	水産課付	水産課主任



モーターの台を船体に
ちようがついで取付け
ハンドルを起すと、起動
する。ハンドルの先に
スイッチがついている。



(図 2)

6. シリンダーカバーの取付不良等により気密でない時。等である。

ただしエアーで充分まわりながらスタートしない場合は、燃料系統及び圧縮系統に起因するとみてよい。つまり燃料ポンプ内に空気のある時、ノズルの閉塞、噴射角度または時期の不適、パイプやバルブの漏り、不良燃料の使用、ピストンリング膠着のため圧力低下、吸排気弁の漏洩等である。

大体10馬力位までのエンジンであれば手振りでも大した労力は必要ないが、漁船稼働の能率化、また無駄な体力の消費をさけるため、できれば財布と相談の上エアーなりセルモーターなりを備えつることをおすすめする。最近のディーゼルには10馬力でもエアーがけや電動式のものが増加しているがよい傾向だと思われる。ここでエンジンスタート困難の原因を集約してみると。

1. 始動装置や機関各部の故障。
2. シリンダー内圧縮不良。
3. 燃料関係各部の不良。

ということになるが、これに筆者はとくに「4.手振りの時は、要領よく振り切ること」の一項をつけ加えたい。

説明が前後したが、エンジンスタートする前の注意事項を列記してみる。(案外注意されていな

い)

1. 燃料タンク内に燃料が十分入っているかどうかをたしかめる。(重油だけで起動しにくいときは軽油タンクを備え、始動時にきりかえ混合使用する) 起動用のガソリンをエンジンラップに入れる。

(注) 燃料補給の場合、ドラム缶内で十分ゴミ等を沈澱させたウズミを使用すること。底の底まで吸い上げるとは絶対にいけない。

2. タンクのドレンコックをあけて、水分やゴミを抜き出す。
3. クランクケース内の潤滑油量をたしかめる。(この潤滑油取扱についてはメーカーのパンプレット等に交換時期や、油量の調整法等必ず記載してあるから、忠実に守ること)
4. こし器のハンドルを数回まわして、ゴミ等を取去る。
5. プライミングして燃料系統に空気が入っていないかを調べる。(プライミングの仕方も説明書にかいてある)
6. 各注油部にエンジンラップで注油する。

スタート前の注意としては上記のとおりであり毎日怠ってはならない仕事である。次回は運転注意及び故障対策等についてつづけてみたい。

やさしい

漁船機関基礎講座

⑨

水 試 杉 本 技 師

ディーゼルを初めて取扱う人
のために

- 2 -

スタート

前号では機種を選定及び使用油についての注意事項を簡単に述べた。つまり、まず自分の漁船や漁業に適した機種を選ぶと同時に、だれにでもできるエンジンの長持法として、使用する燃料や潤滑油の取扱を正しく行なうということである。初めてディーゼルを取扱う人は、少なくともこれだけは忘れないでほしい。

次にディーゼルを購入した直後、一応だれもが経験することは、スタート困難の問題である。機械的な原因は後述するとして、焼玉や電着にくらべて「どうもディーゼルはかかりが悪い」という先入観があるようだし、又実際に苦労している人も多い。とくに冬季になるとこの問題は深刻で、茶瓶に湯を入れて、それをジャケット内に流しこんで予めウォーミングした上でないとかからないということもよくきく。この問題については、今さらここでディーゼルの構造を説明する必要はないと思うが、空気のみを圧縮熱により燃料着火するため、圧縮比が他のエンジンにくらべて極めて高く、それだけ始動に大きな力を必要とする。といって、いくら力にまかせても要領が悪ければかかりにくいし、年寄や子供の力ではスピードがつかないため勿論困難である。

しかし、頭から、「俺はディーゼルが苦手だ」ときめてしまうのもどうかと思う。スタート時に、フライホイールが軽くグルグルまわるようでは圧縮がない証拠であり、腕にくっつくこたえるようではなければ、ディーゼルとしての価値はない。無圧縮ハンドルをおこしてフライホイールをまわし十分惰性をつけて振り切ればよい。ただ圧縮行程の終期に着火爆発するのであるから、振り切る時にこのことを頭に入れて、上昇行程ではとくにピ

ストンを押上げてやるのだというような気持ちで下死点付近でタイミングよく無圧縮ハンドルをたおせばよい。少し熟練すれば大してむつかしいものでなく、ただ前記の如く無暗矢鱈に廻せばスタートするのだという考え方はこの際やめてほしい。しかし冬季の運転やエンジンがスイてきた場合は、いくら要領よく廻してもかかりが悪いのは当然で、色々工夫して暖機をしたり、ボーリングするより仕方ない。どうしてもかけるのが苦手な人は、エヤーがけにするか、セルモーターを取付けるとよい。電動でスタートする方法も最近種々あるようだ。フライホイールに平ベルトをかけてまわすもの(別図1)フライホイールに磨擦物質(綿ベルトなど)をまきつけ、これに電気アンマ式にモーターのプーリー(これにもゴム等まきつけてある)を押しつける方法などがある(別図2)。

エヤーがけとセルモーターとでは一長一短があるが、エヤーの方は、エヤーを落せば他船よりのチャージに頼る外なく、もししけの時沖でエンジンがストップしてそのようなことが起れば大へんなことになるから、使用後のチャージを絶対に怠ってはならない。その点電動はバッテリーをつかい切らない以上、殆んど心配がないから比較的使いやすく、安全である。ただ最近内海の漁船は殆んどバッテリーを持っていないから、バッテリーから揃えると相当価格が高つくので敬遠されているようだ。そこでエヤーがけの場合について一寸説明したい。

エヤでも十分まわらない原因

1. エヤーの圧力低下
2. ストップバルブの開き不足(エヤタンク)
3. 始動弁の膠着(排気充てんのため)や開閉角度の少ない時、又は漏洩。
4. クランクの始動位置不適。
5. 冬季に潤滑油粘度が高くなってへばった時。

昭和36年4月の海面漁獲量の概要

農林省兵庫統計調査事務所

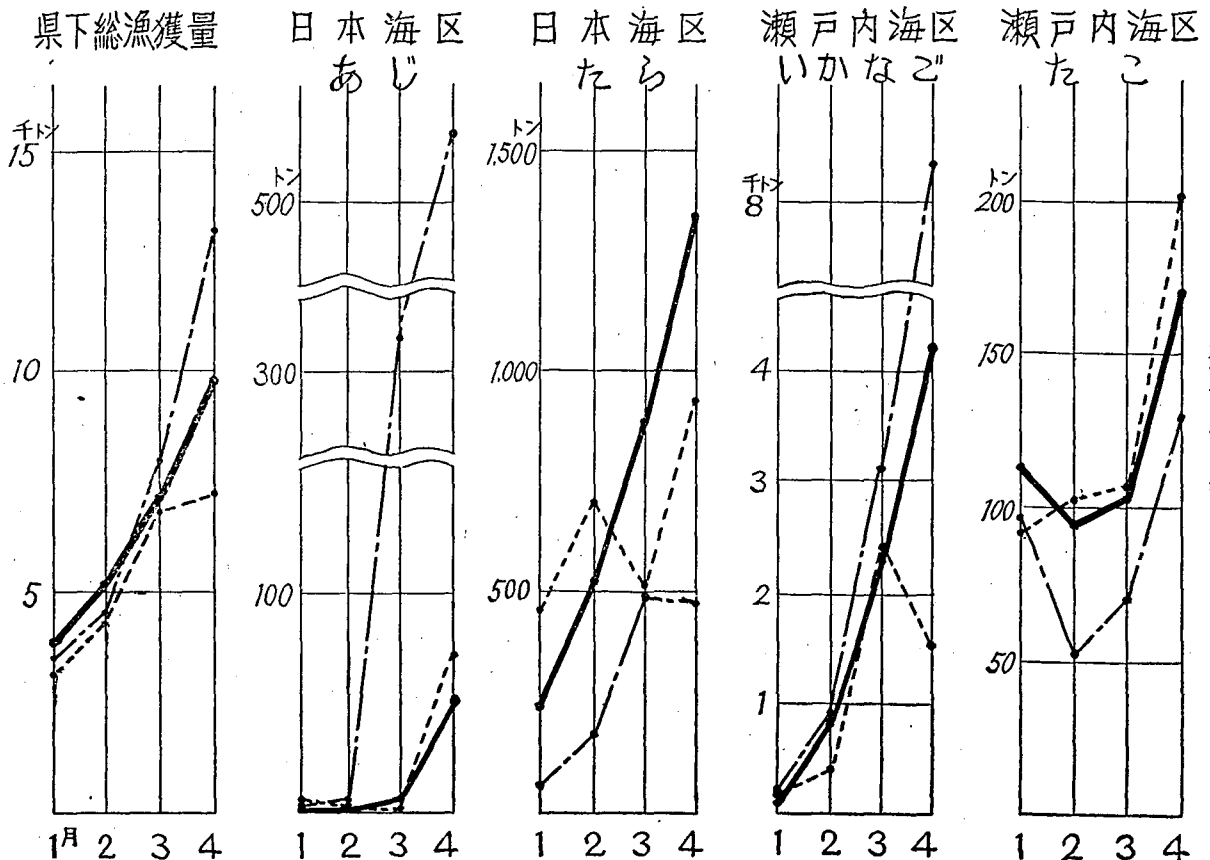
昭和三十六年四月の海面漁獲による兵庫県漁獲量は、一二、九五二ト
ンで前年同月より六、一二七トン（九〇%）の増加であったが、これは
瀬戸内海区の「いかなご」が戦後の最高を示した昭和二十八年の同月
における漁獲量約七、六六〇トンを上廻って約八、三〇〇トン漁獲され
たことに起因している。

他県船によって水揚げされた漁獲量は三〇五トンを、そのうちわけは鳥
取、島根の中型機船底曳網が三〇三トン京都の巾着網が二トンであつ
た。海区別には瀬戸内海区が九、五〇五トン（摂津海区一、六二五ト
ン、播磨海区二、七九二トン、淡路海区五、〇八八トン）で前年同月
約三倍の漁獲成績を示したが、日本海区においては三、四四六トンを
前年同月より六%減少した。

増加した主な魚種は「いかなご」「あじ」「はたはた」「いか」「え
び」貝類、藻類であるが、本月はとくに瀬戸内海区における「いかなご」
の漁獲増がめだち、前年同月の五、四倍、過去五カ年平均漁獲量の約
二倍にあたる八、三一七トンの水揚げがあった。このうち込瀬網による漁
獲量は七、七九〇トンで、これを漁場別にみると、明石沖において三、
三〇七トン、淡路東岸で一、〇五五トン、淡路西岸で三、〇四〇トン、
淡路南岸で三八八トンとなっている。「あじ」は日本海区において五二
八トンの漁獲量で前年同月の約七倍、過去五カ年平均漁獲量の約十倍の
成績で、これを漁業別にみると巾着網で二八七トン、敷網で一四四ト
ン、定置網で九四トン、その他の漁業で三トンとなっている。「はたは
た」の漁獲量は五九〇トンで前年同月の約三倍にあたるが、しかし、過
去五カ年平均漁獲量よりみると約三〇%増加したにすぎない。

減少した主な魚種は「いわし」「ぶり」「かれい」「たら」「にぎす
」「さめ」「まだい」「たこ」等で「かれい」は前年同月より日本海区
で二〇%、瀬戸内海区で七%減少した。また、「たら」は前年同月の約
半分、「いわし」は前年同月のわづか一三%を水揚げしたにすぎない。な
お、「たこ」は日本海区において一一%の増加を示したが、しかし、主
漁場の瀬戸内海区で三、六%減少したので総計では三〇%減少したこと
となる。

——過去5年平均 ——本年 ——前年



本年の月別漁獲量と前年および過去五ヶ年平均漁獲量との比較

昭和36年4月の海面漁業漁獲量 (単位:トン)

海区 年度	県 総 計				日 本 海				瀬 戸 内 海				
	36年	35年	増減量	%	36年	35年	増減量	%	36年	35年	増減量	%	
魚種													
総 計	12,951.8	6,824.8	6,127.0	190	3,446.4	3,657.3	△ 210.9	94	9,505.4	3,167.5	6,337.9	300	
魚	い わ し	108.7	865.4	△ 756.7	13	78.6	477.8	△ 399.2	16	30.2	387.7	△ 357.5	8
	あ じ	528.2	74.8	453.4	706	528.2	74.0	454.2	714	—	0.9	△ 0.9	—
	さ ば	38.0	23.5	14.5	162	38.0	23.5	14.5	162	—	—	—	—
	ぶ り	49.8	71.1	△ 21.3	70	46.8	71.1	△ 21.2	70	—	0	△ 0	—
	ひ ら め い	1,121.6	1,384.8	△ 263.2	81	1,025.9	1,282.3	△ 256.4	80	95.6	102.5	△ 6.9	93
	た ら	491.4	834.7	△ 343.3	59	491.4	834.7	△ 343.3	59	—	—	—	—
	は た は た	590.4	194.5	395.9	304	590.4	194.5	395.9	304	—	—	—	—
	に ぎ す	177.0	218.0	△ 41.0	81	177.0	218.0	△ 41.0	81	—	—	—	—
	さ め	36.0	68.7	△ 32.7	52	32.7	63.1	△ 30.4	52	3.3	5.6	△ 2.3	60
	は も	2.0	2.6	△ 0.6	77	—	—	—	—	2.0	2.6	△ 0.6	77
	ま だ い	33.3	79.4	△ 46.1	42	4.7	9.4	△ 4.7	50	28.6	70.1	△ 41.4	41
	さ わ ら	1.3	3.8	△ 2.5	35	—	—	—	—	1.3	3.8	△ 2.5	35
	ぼ ら	12.9	16.8	△ 3.9	77	0.2	0.2	△ 0	79	12.8	16.6	△ 3.8	77
	す ず き	8.0	12.5	△ 4.5	64	1.4	1.0	0.5	149	6.6	11.5	△ 5.0	57
類	い かな ご	8,316.8	1,524.1	6,792.7	546	0.1	—	0.1	—	8,316.6	1,524.1	6,792.5	546
	あ な ご	83.1	60.5	22.6	137	3.2	4.7	△ 1.5	69	79.9	55.8	24.1	143
	そ の 他 の 魚	336.8	390.8	△ 54.0	86	146.2	190.4	△ 44.2	77	190.6	200.4	△ 9.8	95
	(魚類計)	11,935.4	5,826.0	6,109.4	205	3,167.8	3,444.6	△ 276.7	92	8,767.6	2,381.5	6,386.1	368
水産動物	す る め い か	0.7	0.1	0.6	718	0.7	0.1	0.6	718	—	—	—	—
	そ の 他 の 水 産 動 物	102.9	74.1	28.8	139	5.1	6.2	△ 1.1	82	97.8	67.9	29.9	144
	た こ	159.2	228.1	△ 69.0	70	29.5	26.7	2.8	111	129.6	201.5	△ 71.8	64
	え び	112.8	85.7	27.1	132	15.1	7.3	7.8	206	97.8	78.4	19.3	125
	か に	119.7	126.1	△ 6.4	95	119.3	124.5	△ 5.2	96	0.4	1.6	△ 1.2	26
	な ま こ	47.3	53.9	△ 6.6	88	—	—	—	—	47.3	53.9	△ 6.6	88
	そ の 他 の 水 産 動 物 (水産動物計)	1.2	4.7	△ 3.4	27	1.0	0.9	0.1	110	0.3	3.8	△ 3.5	7
貝 類	234.8	227.8	7.0	103	29.4	22.7	6.7	129	205.5	205.1	0.4	100	
藻 類	237.8	198.2	39.6	120	78.6	24.4	54.2	323	159.2	173.8	△ 14.6	92	

(注) △は減 0は漁獲量50kg未満 (50kg以上は100kgに切上げ)

われらの漁民銀行

兵庫県信用漁業協同組合連合会

会 長 島 田 文 治 郎

本 所 兵庫県立水産会館内 直通電話⑥0193
但馬支所 香住町中浜頭 香住125

購 買 品 は 漁 連 て

兵庫県内海漁業協同組合連合会

会 長 三 浦 清 太 郎

本 部 兵庫県立水産会館内 直通電話⑤3424-5
明石油槽所 明石市船町 明石3207
富島油槽所 北淡町富島 富島 66
飯屋出張所 淡路町飯屋 飯屋 59

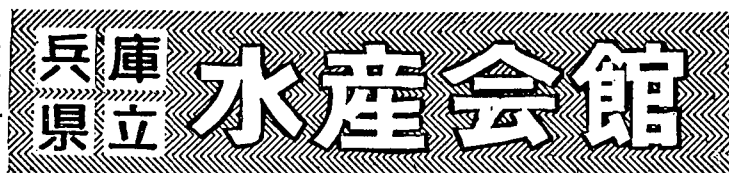
購 買 品 は 系 統 利 用

但馬漁業協同組合連合会

会 長 西 上 重 次

城崎郡香住町香住 電話香住154

神戸市兵庫区
新在家町



電話⑤8301(事務所)

電話⑤9563(宿泊所)